

- 管 内 根室管内
- 分 類 生活安全 交通安全 災害安全
- 教育課程 教科（科） 道徳 総合的な学習の時間 特別活動 その他
- 校 種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 外部講師によるWeb教材等を活用した指導の工夫
- 実際の避難所を想定した模擬避難生活など、体験学習の工夫

取組の実際

ねらい

- 津波災害について正しい知識をもち、I Tを活用した災害時の適切な対応について理解を深めるとともに、災害時に自分の命を守るために主体的に考え行動できる態度を育成する。

内 容

1 I Tを活用した防災授業

NHKの協力のもと、インターネットなどのI Tを活用し、緊急時における情報の入手、居場所などの確認方法、助けを呼ぶなどのコミュニケーションの回り方について学ぶ授業を行った。

授業では、NHK札幌放送局のホームページにアクセスし、自分たちのまちの天気や夜の気温、予想される津波の高さなどを調べたり、コンテンツ「釜石の奇跡」を視聴したりした。

また、冬の自然災害を想定し、厳寒の夜を生き延びるために必要な方法（灯明づくり、即席の寝袋づくり、非常食づくり等）についてインターネットで調べたり、メールで札幌にいる講師に質問したりした。



インターネットを活用した情報収集



情報通信端末を活用したコミュニケーション

2 避難所での生活体験学習

I Tを活用した防災授業での学習内容を生かし、電気や水、暖房のない避難所を想定した体験学習を夜間に実施した。

屋外でのブロックストーブづくり、新聞紙を使った薪づくり、避難所での食事づくり、新聞紙や段ボール、ブルーシートや毛布など避難所に備え付けられているものを活用した簡易寝袋の製作、手作り灯明を灯しながら電気や暖房のない部屋で体を温める体験などを行った。

また、タブレット端末を使用し、情報サービス（ツイッター）を用いて、保護者に自分たちの安否を訓練用のメッセージで伝えることや、情報を検索する体験を行った。



手作りの暖房

成果と課題

- 防災教育にI T活用の視点を取り入れることで、児童は災害避難時に命を守るために必要となる知識や情報を広く求める姿が見られ、主体的に考えながら行動することができるようになった。
- 地域や保護者との連携を図った内容となるよう、合同避難訓練を行うなど、避難訓練の在り方を一層工夫する必要がある。